

IASL 東京大会に参加して

文学部国文学科 木村彩乃

私はIASLの東京大会にボランティアとして参加しました。このような学会、特に国際学会の場に参加することは初めてのことでしたが、普段は接する機会がないような方たちの中で過ごした経験が自分の糧になったと感じます。

ボランティア初日の仕事は開会式前の参加受付の手伝い、開会式の案内スタッフ、プレゼンテーションのマイクランナーでした。開会式前については、事前にボランティアスタッフに向けて仕事の割り当て表は配布されていましたが、私は特に具体的な仕事を割り振られたわけではありませんでした。なので、同じボランティアスタッフの方に声を掛けて参加者にネームプレートを渡す仕事をお手伝いしました。学部生のボランティアは皆同じ立場なので、自分から積極的に声を掛けないとどうしていいかわからず、居場所がありません。ただ、声を掛けると快く教えてもらえ、仕事もたくさん見つかります。知り合いはほぼ皆無でしたが、人見知りをしている場合ではないと感じました。開会式では会場内で何かあったときの案内スタッフとして待機しました。何度か参加者の方に声を掛けられ対応しましたが、基本的には挨拶、講演、出し物など拝聴することができました。午後からのマイクランナーは、プレゼンテーションへの質問者にマイクを手渡す仕事でした。発表者の方と軽い打ち合わせがあったので、英語で話しました。流暢に話せるわけではないので不安でしたが、用件を伝えることに焦点を絞ると何とかなると思いました。むしろ海外の方だと分かりやすく反応をしてくださるので、達成感があります。

2日目は受付と会場フロア待機の仕事でした。受付はなかなか人が途切れず忙しくしていましたが、共に受付をしていた司書教諭の方に空き時間でおすすめの図書を教えていただくなどの交流もしました。普段は学校で働く司書の方々と話す機会があまりないので、新鮮でした。フロアでは会場の案内や参加者の質問への対応をしました。忙しさに波があるので、担当場所が同じ学生ボランティアと話をしていました。進路や司書過程の単位の違いなど、話していると知らない世界に触れたようでとても刺激になります。

3日目は学校図書館のツアーにボランティアも同行させていただけることになり、横浜市立盲特別支援学校と関東学院大学附属小学校を訪れました。自分が通った学校とは学校の方針や設備、取り組みなど異なるところに感心しつつ、司書課程の授業で学んだ

知識の実践例を見られることが大変参考になりました。特別支援学校の絵本が同じ作品であっても生徒の段階に合わせて何種類も用意されていることを実際に広げて知ったり、点字の教科書を開いてみることは貴重な体験だったと感じました。ところどころでボランティアとしての雑用がありましたが、率先して動きださないとすることがなくなり居心地の悪い思いをするので、なるべく気付けるように心がけるといいと思います。

4日目はボランティアのお休みをいただき、講演会などに参加しました。漫画家である里中真智子さんの基調講演に参加したのですが、日本の漫画文化の変遷を語る分かりやすくも面白いお話にすっかり夢中になりました。今回の国際大会ではあらかじめ原稿を用意しておき、英語の同時通訳を参加者の無線イヤホンから流すという通訳形式がとられていましたが、この講演に限らず各所のプレゼンテーション・セッションでは活発なディスカッションが行われていました。世界の司書の熱意を肌で感じられた気がします。同日にはポスターセッションや企業ブースにも訪れました。日本の学生や企業が出展者でしたが、資料は英語でつくられ、英語で海外の参加者に説明していました。ポスターセッションの資料は基本的に英語のものしか準備していないようだったので、国際的な集まりにおいて英語はできると便利、というよりできないと支障があるものなのだと感じました。他にも英語で演じる落語など様々な催しがあったので、このような場に参加するときはなるべく多くの催しを見て回ると楽しいと思います。ひょんなことから明治大学の事務の方に明治大学にまつわる歴史的な逸話を聞く機会も得たので、仕事を引き受けて人と話せば話すほど面白い見聞が得られます。

最終日はボランティアの空き時間でワークショップに参加しました。高校生が英語でビブリオバトルをするというものでしたが、発表した高校生の英語が流暢で自らのレベルを痛感しました。とても楽しく参加させていただきましたが、私と同じように英語に自信がない人が多かったのか、日本の参加者は意見を求められてもなかなか発言しない傾向があると感じました。傍観者でしようとする方が海外に比べて多いような気がします。IASLの閉会式前に行われた特別セッションでも同じような様子が見られたので、学生のうちに自分の意見を発表することへの抵抗をなくしたほうが良いと参加して思いました。閉会式後の撤収までお手伝いしましたが、話せていなかった学生ボランティアの方たちとも話し、忙しく走り回りました。

この5日間、ボランティアとしてはそんなに大変な仕事はなく、得られる知見のほうは何倍も多いように感じられました。国際大会ということも関西から関東に出張したということもあって、全体を通して異なる文化にふれる体験だったと思います。その中で微力ながらも自分が役に立てたことをとても嬉しく思います。自らが積極的に動いた分だけ新しい経験ができるので、好奇心旺盛な方には是非積極的にこのような経験をしてほしいと思いました。